

役 員 各 位

2012. 8. 4

実行委員長 叶 正 喜

第12回 配田ヶ丘同窓会（総会・懇親会）反省会

1. 全 般

第11回同窓会の反省点等の改善も含め、内容等に工夫を凝らした配田ヶ丘らしい会となり、盛会であったと思います。

これも、労をいとわず協力いただいている役員の方々の成果だと思います。

特に「蝦名さん指導による直前の折鶴形箸袋の作成」、「急遽、米田さんをお願いした横断幕のクリーニングと夜なべ作業となった横断幕の乳付（ちつき）の縫製」、役割とは言え「前田さんの会計処理業務」、「初谷さんの懇親会料理等の調達・調整」、「開催当日における役員の方々の協力によるスムーズな会場設営」、「宮田さん・米田さん両司会者の臨機応変な進行対応」、「向さんのビデオ撮影」等々、役員一人ひとりの心の行き届いた対応が随所に現れていたと思います。

しかしながら、一部反省点もありましたので、以下述べさせていただきます。

2. 細部反省点

（1）準備段階

ア 実行委員会（役員会）を4回実施しましたが、最終的にはバタバタした行動になってしまった。原因は、役員会で決まったことが先送り状態で処置されていなかったこと。

イ 案内状の発送が遅かったため、出席者の把握が遅れ、配席表の作成・ネーム札の準備等が思うように進まなかった。（機会の有効活用）

ウ パンフレット資料の準備の遅れにより、直前まで混乱を生じた。

エ 役割分担と懸案事項の最終確認ができなかった。

役員会の会場（居酒屋）がうるさくて、一番大事な段階での調整等が十分にできなかった。（役員会の会場設定については要検討）

（2）開催当日

ア 会場設営

a) 前回に比べスムーズにできた。あとひと工夫で更に良くなると思う。

b) 苦心の折鶴の箸封筒は、心がこもっていたと思います。

c) 受付・接遇は、パンフレットの到着が遅れ、直前作業で手間取る面もあったが、全体として大きなトラブルもなく円滑に対応できたと思います。

イ 総会

- a) 来賓の方々はおおむね揃っているが、会員の出足が鈍い状況での開会ということで違和感があり、スタートが切りづらい。
(島時間と言って、済ますことの無いよう何らかの工夫が必要)
- b) 総会の在り方・進め方を検討する必要があるのではないだろうか。
 - ・総会の捉え方が不明瞭な気がする。
会則にのっとりた総会の意味なのか、会務・会計報告等を兼ねた総会という行事なのかが分からない。
 - ・総会は会員のみとし、来賓の出席は懇親会以降とするのも一案。

ウ 懇親会

- a) オープニングの愛唱歌“ふるさとのはなしをしよう”は良かった。
定着させたいと思うので、次回は出席者全員に歌詞を配布する。
- b) 方言による挨拶も好評であった。(更に、工夫を凝らして定着させる)
例えば、全員に立っていただいてお隣同士、またはテーブルごとに方言で挨拶の交換を取り入れる。(島ごとに微妙な発声の違いはあるが、余りにしないで、司会の挨拶に唱和する形式で進めたらどうか?)
- c) 会員の皆さんの熱意で、先輩・若手の島唄や琉球舞踊、同級生によるコーラス、名物の配田ヶ丘の踊り等バラエティーに富んでいた。
- d) 配田ヶ丘のカラーが出ていて非常に良かった。継続すべき演目については継続する。ただし、マンネリ化しないように演出等の工夫を凝らす必要がある。(照明等のコントロールを取り入れる)
例えば、ポイントポイントに照明を取り入れる。
特に、フラダンスは小林れい子さん門下生のご厚意もあるので、照明を入れてあでやかに演出して差し上げたかった。

エ 打ち上げ会

- ・ 懇親会の余韻で、多くの来賓の皆さんにも参加いただき、懇親会とは違う雰囲気での交流ができてよかった。ただし、少し時間が長かったきらいもある。(途中、飲み物の追加注文あり、つまみ等は乾きものを準備)

以 上